

## 白いタンポポ

妻の生家から林檎を作ってみませんかと言われ、仙台より約四十キロ離れた蔵王町矢附まで、土曜、日曜、休日に通い作り始めた。都合で蔵王町小村崎に転居する三年ほど前だから、十八、九年前になる。畑の一隅に掘建小屋を建て休憩所にし、連休には泊った事もある。部落から少し離れているが、飼い犬の“ぽっぽ”を連れて行き放し飼いにする、少しも寂しいとは思わなかった。

四 五年過ぎた頃、一面タンポポの花の中に、一株だけ白い花を咲かせる株を見つけた、生まれて初めて見るタンポポである。何処に行っても、タンポポの花は黄色だ。林檎畑の中は、黄色のじゅうたんを敷き詰めた様に美しく見事であった。



白いタンポポを、畑の端に移植、丸い輪で囲った。それから毎年白い花を咲かせ私達を和ませ、楽しませてくれた。近年タンポ

ポは外来のアメリカタンポポが殆どで、日本タンポポは見当たらなくなつた。林檎畑の土手には少ないが日本タンポポが自生していた。

タンポポの花が散ると綿毛が付いた種を残す。二度ばかり黄色のタンポポの中に白いタンポポが、弱々しく咲いていた事があつた。私が大事にしているタンポポの種が、風に飛ばされて着地翌年目を出したのだらう。それを自宅に移植したが、余りにも弱々しかつたから、根付かなかつた。

一 昨年春には白いタンポポは芽が出なかつた、掘り起こした様な跡があつた。前年そのタンポポの綿毛の種を採つて保管してあつたので、農家の友人に頼んで蒔いて貰つたが、発芽しないと返事があつた。

十年程、毎年咲いて、私の宝物の様な存在だつた白いタンポポは、一枚の写真を残すだけ残念でならない。

平成十五年四月十一日